

## Q&A

Tim de Paravicini  
EAR Yoshino 創設者 & デザイナー



CW: CD プレーヤー・DAC・真空管プリアンプのスマートソリューションを開発した理由は？  
TDP: ハイファイ音楽のために、もっといいデジタルハブをデザインしたかったのです。私共が目標としているのは、変化の早いデジタルメディアに同調せず、時代を超えて存在し続ける製品を作ることです。CDは、一時期の基準になり得たメディアですが、今後の進化は期待できません。しかし、このDACは今後、登場するいかなるデジタルソースも、広く進化させることができると思います。

CW: あなたのエンジニアとしてのこだわりをもう少し説明していただけませんか？

TDP: どこに問題がどこにあるのかを理解するため、すべてをバラバラにして、それからより良い方法を考えます。私が求めていることは、DACからの出力を最も純粋でシンプルな方法を作り出し、私のスタジオと同じスタイルのブリッジトランスを使用し、メインラインのアンプから信号を電氣的に絶縁することです。50kHz以上のノイズを取り除き、そして、パワーアンプとツイーターへの圧迫を減らすため、パッシブLCフィルタを使用しています。デジタルボリュームコントロールのザラつき感が好きではないので、私の真空管アンプにはアナログボリュームコントロールを採用しています。

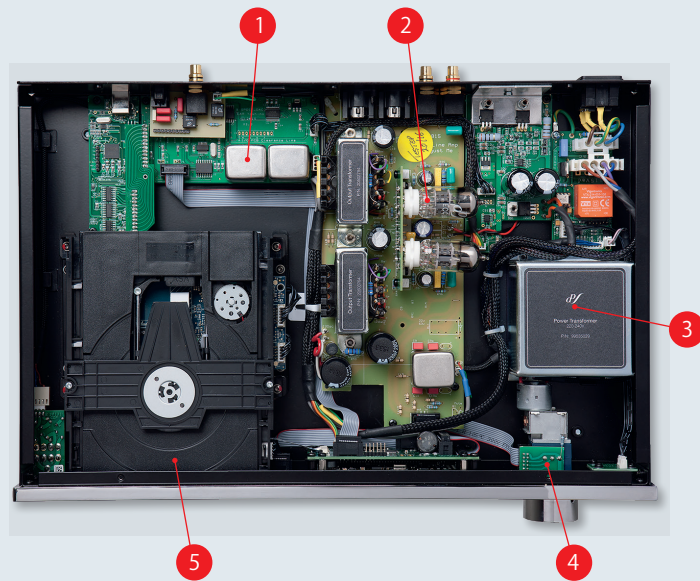
CW: 真空管を使った場合のサウンドクオリティをどのように定義しますか？

TDP: ECC88を使用だけでは音質の定義はできません。真空管は真空管、しかし、重要なのは、トポロジーと真空管の使用です。プロフェッショナルのためのラインレベルアンプの開発に時間を費やし、小電圧でECC88からの出力を最大限にできるトランスをデザインしました。このトランスは広帯域で、600Ω負荷+26dBでドライブできます。

CW: 品質維持は、どのようにしていますか？

TDP: 納品前に入念なチェックをしています。サプライヤーは50マイル以内の距離にいますので、コミュニケーションと密接な関係性のおかげです。サプライヤーとは20年以上の付き合いがあります。EAR Yoshinoで働き出して10年以上の経験を積んだ、真面目な製造スタッフもいます。規定のチェックを終えると、3日間、連続稼働させてから、最終品質検査を行っています。

## IN SIGHT



- 1 デジタル出力トランス
- 2 真空管アナログ出力
- 3 トロイダル型電源トランス
- 4 電動式ALPSポテンショメータ
- 5 CDロードトレイトランスポート



## 比較

他の製品との比較  
Rega Isis CD プレーヤーも、真空管を採用しており、Rega サウンドも強い音楽性を持つ。Audio Note's CD-3.1x/II も絹のようになめらかなパフォーマンスを実現するためECC88真空管を採用している。複数のデジタル入力とプリアンプ機能はないが、2つのCDプレーヤーはAcute Classicと比べる価値がある。LuxmanのD-06u CD/SACD プレーヤーは美しい構造で洗練されたプレーヤー、DSDファイルも再生できるので、将来を見据えたモデル。しかし、EAR プレーヤーのシンプルさ、アナログボリュームコントロールと真空管のマジックは、癖になるほど素晴らしい。バランス、洗練性、機能性を兼ね備えたワンボックスCDプレーヤーで推薦できるモデルは非常に少ない。

iTunesを起動し、Chord社のSilverPlus USBケーブル(HFC 407)でAcute Classicの背面にMacBook Proを直接つなげてみる。「USB source」を選択すると、即座にプレーヤーにはMacからのデータがフィードされる。通常、DACの扱いは厄介だが、これは、本当に簡単。セッティングメニューをいじくり回したり、特別なソフトウェアのダウンロードに無駄な時間を費やす必要がなく、清々しい気分だ。24bit/96kHzで録音されたアルネセンのマニフィカトのエト・ミゼリコルディア(演奏: トロンハイム・ソロイストとニダロス大聖堂女声合唱団)を試聴。合唱曲としてのこの曲は非常にみずみずしいので、音声ファイルの欠点が目立つのではないかと予測していた。予想に反して、曲の始まりの弦楽器のサウンドが甘く、クリアに聞こえ、それからオーケストラの流れの中、ソリストのはっきりした歌声が豊かに高く響く。女性コーラスが盛り上がり始めても、旋律を歌うソリストの声は強過ぎず、甲高くもなく、僅かな抑揚が美しく響く。iTunesから単純なファイルを送信しているだけなのに、素晴らしい音の響きに鳥肌が立つ。EAR Acute Classicなら、まさに、簡単なデジタルファイルを、洗練された音楽に変換させる事が可能だ。

## 結論

優秀なプリアンプ付きCDプレーヤー・DAC、このマシンの素晴らしい設計が私たちに気付かせてくれたこと、それは、次々と進化するDACへ求めるものが処理能力の高さのみになっていること。そして、どれだけレアなファイルをデジタル・アナログ変換できても、マシンから流れる音を楽しむことに意識が向いていないということ。EARは新たな追加機能を追求することはせず、DAC

セクションもUSB経由で24bit/192kHzが最大出力だが、アナログに精通しているだけあり、単純なデータをフィードしただけなのに、素晴らしいサウンドに変えることができる。CDプレーヤーの真空管部分もデジタルファイルにうまく合致している。ハイレゾではないファイルもデジタルのエッジ感が取り除かれ、スムーズに聞こえる、これは真空管のマジックであろう。また、CDやコンピュータファイルやストリーミング音楽はAcute Classicを通すことで、素晴らしいサウンドになる。ボーカルやアコースティック楽器は少しリアルに聞こえ、グランジはグランジらしく、ジャズはよりジャジーに、エレクトロポップはよりエレクトリックに響く。全てが自然に音楽的に流れる。音楽を愛してCDコレクションを便利に楽しみたい人には、このマシンがぴったり。絶対にお薦めだ。

## Hi-Fi Choice

### OUR VERDICT

- SOUND QUALITY ★★★★★  
VALUE FOR MONEY ★★★★★  
BUILD QUALITY ★★★★★  
FEATURES ★★★★★  
OVERALL ★★★★★
- LIKE: Musicality; DAC with remote volume control; build  
DISLIKE: Keeping the front panel shiny  
WE SAY: Smart blend of analogue mastery with digital know-how creates sumptuous product that makes music sound great



## Dynamic duo

Denon's heavyweight amp & CD/SACD enters new era

## Smart moves

Ditch the wires and noise with Sennheiser's classy headphone



# Hi-Fi Choice

PASSION FOR SOUND

Issue No. 415

October 2016

# Groove masters

Six mid-priced turntables for the vinyl revolution

# 38

PRODUCTS ON TEST:

Acoustic Energy, Elipson, Naim, Roksan & Thorens



RECORD STORE GUIDE: YORK

Historic city is a collectors' delight

WIN!

JAYS headphones worth £1,600

DIGITAL MUSIC ESSENTIALS

Getting started in computer audio

EAR Acute Classic CD

Sensational valve hybrid player/DAC & preamp

Total Tannoy Superb Eclipse floorstander





# 銀色のドリーム マシーン

クリス・ワードがEAR Yoshinoの最新CDプレーヤーを試聴し、マシーンに秘められたトリックを見出す。

オーディオ形式として、CDはある意味、一定の人々から見捨てられてしまった。その理由として、レコード盤にはアナログのフローが強調されるし、デジタルファイルではダイナミックさやリアリズムは追求できるのに、CDではそれができないからだ。しかし、私の過去30年の音楽人生で収集したコレクションに目をやると、ほとんどがコンパクトディスクで所有しているという現実がある。

従来のフォーマットの音楽をベターなサウンドで聞くことにビジネスチャンスがあることをEAR Yoshinoは理解しており、同社のAcute 4 transportとDAC4を駆使した見事な2ボックスコンボも完成させている。しかし、コストを抑えてシンプルで1ボックスにならないか？この要望に答えたのが新しく提案された管球式CDプレーヤー+DACのAcute Classicだ。

組み立て精度は高く、ずっしりとした重量感からも高品質なトランスが内蔵されていることが想像できる。シンプルなスチールの外板には目を引くような突飛さはないが、手作業で磨かれた真鍮のフェイスア(前面のパネル)が新車のベントレーのように輝いている。このプレーヤーをいつものようにBlack Rhodium Sonata VS-1ケーブル(HFC 398)でAudion Golden Night 300B monoblocksに接続する。スイッチを入れる準備は完了だ。スイッチボタンは、まず、赤く点灯、スイッチを押し、パワーアップが完了するとソフトなオレンジ色に代わる。ディスプレイにはディスクを読み込みが完了するまでの間、EAR Yoshinoのロゴが表示される。スリムなCDデッキはハイエンドなプレーヤーには薄すぎるかと思われるが、動作はスムーズで、正確だ。

## DETAILS

**商品名**  
EAR Yoshino Acute Classic

**製造国**  
英国

**種類**  
管球式CDプレーヤー/DAC

**重量**  
8kg

**サイズ**  
(WxHxD)  
435x65x285mm

**特徴**  
真空管：2x ECC88  
入力：1x S/PDIF 24bit /192kHz PCM  
1x Toslink 24bit /96kHz PCM  
1x USB 2.0 24bit /192 PCM  
出力：1x stereo RCA  
1x Balance XLR  
6.35mmヘッドフォン

**販売元**  
EAR Yoshino  
電話  
01480 210004  
ウェブサイト  
earyoshino.com

デッキの下にあるボタンは、デッキの開・閉、ストップ、再生・一時停止、戻す・進める以外に「source」も付いている。これがEAR製品の注目すべき第一のトリックだ。これは普通のCDプレーヤーではなく、デジタルソースを入力できるDAC付きのCDプレーヤーなのだ。

背面にはバランスXLR出力、RCAアナログ出力があり、同軸入力、Toslinkデジタル入力とUSB2.0デジタル入力よりストリーミングやポータブルプレイヤー、トランスポートやコンピュータからのデジタル信号をWolfson WM8741 DACにフィードすることも可能。「Source」ボタンはこれらの入力ソースを制御し、シンプルなデジタル・プリアンプとして作動する。これこそがEARのマシンの2つ目のトリックだと私は思う。ファシアに付いたクローム色のツマミはアナログのボリュームコントロール。このプレーヤーはパワーアンプやアクティブスピーカーにダイレクトに接続することも可能なのだ。デジタルボリュームコントロールに対し、アナログのポテンシオメータの伝統的な利点は、信号ゲインの低減目的のための、デジタルビット切り捨てが不要であることだ。EAR YoshinoはECC88真空管を1組と少し特殊な手巻きトランスを採用しており、ノイズレベル比に対して、非常に良好な信号に到達することを可能にしている。

この価格がCDプレーヤーに支払う適切な金額であるか？エレガントで機能的なリモコンにより制御可能なDACや真空管プリアンプが付いていて、ヘッドフォン使用も可能、納得できる価格ではないか。ワンボックスになっていることも、非常にスマートな選択である。肉厚な音響や繊細な音声のみに合致させることは目標としておらず、これ以外のニーズに必要な全てが、素晴らしいデザイン設計されたパッケージの内部に揃っている。

## サウンドクオリティ

ケイト・ラズビーのNo NamesをCDで試聴、これは素晴らしいスタートである。ギター弦の爪弾く音は甘く響き、彼女のクリーンな歌声は説得力のある響きをスピーカーの平面から存在感を前に押し出すと同時に、愛すべき風のような軽さも感じさせる。彼女の繊細なビブラートは明瞭さと感度の良さをも伝える、と同時に、彼女の歌声がリアルな暖かさや強い洞察と共に運ばれてくる。バルブ部分に、もう少し滑らかさを加えたらいいと想像するのは容易いが、ちょっとしたディテールや衝撃を変えることで解決することもできるであろう。

ACUTE CLASSICの秀逸さに  
見合ったずっしりとした重み

しかし、ここでは、その必要はない。ノイズ・フロアは美しく響く声の中では、無視できるほど低く、感情のニュアンスを細かく伝えてくる。コントラストがメロディーと混ざり合い、低音はディープに、濃く、そして、しなやかに響く。時として、低音はCDの欠点だと思えることがある。しかし、このマシンの場合、低音部に説得力があり、アナログ感も強く感じられる。ディープな音は鳴り始めから明確に聞こえるが、その後も、甘い響きを開放させる、その感じは単なる音ではなく、本当の木製の楽器が鳴り響いているようだ。

ロディ・ウーンブルのボーカルの歌い出しはとてもクリーンで澄んでいて、部屋中にその存在感を示し、私も引き込まれてしまう。CDはアナログ音源や高解像度デジタル音源よりも、小さく凝縮した印象を与えるものだ、しかしながらAcute Classicの効果は素晴らしい、音楽に広がりを与え、リラックスさせ、呼吸させ、サウンドステージをととても大きく、深く、そして、高く、3Dで感じさせてくれる。サウンドクオリティは私がCDの音源に予想していたものより、ほんの少し軽く、影があり、テクスチャーを有しており、サウンドパフォーマンスには感情的な質を感じる事ができた。リモコンでCDプレーヤーを操作する場合、ディスプレイがとりわけ役に立った。なぜなら、トラック番号、一時停止、再生、ストップ等の操作は、クリアな表示でわかりやすく、マシンから離れた部屋の反対側でも、はっきりと確認することができる大きな表示である。リモコンも良く出来ており、コンセプトは完璧だ。トラックを変えたり、インプットを選んだり、電動式ボリュームコントロールはスムーズだった。

ボリス・ブランクのElectrifiedのCDを入れてみると、Acute Classicはマイルドなモードが不必要なことがわかっている様子。収録曲はのんびりした雰囲気ではない。エレガントな模様が施されたメタルのリモコンでボリュームを上げる。ブランクのピンと張った電子ビートが視聴室の床をドンドンと揺らす。CDプレーヤーによっては、スナップがあってシャープな音ばか

りが耳についてしまうが、EARの秀逸な点は、断固とした信念を持って、真空管と合致している特徴的なフローと共に、音楽的な絵画を描くことである。超重低音は活気のあるシンセサイザー音、スタッカート感の効いたパーカッション、ロボットのようなボーカル、ワーワーと伝染するようなギターの音色と重なりあう超重低音には説得力と推進力があり、リアルな気迫とダイナミックさも持ちあわせながら、響き続ける。

次に、Audion300B真空管アンプから、私のお気に入り、リニューアルされたばかりのADCOMのSSPA(Solid State Power Amplifier)に変え、同じ曲を聞いてみることにした。私の使っているCadence Arca静電型ハイブリッドスピーカーからの音が大きくなり、低音がシャープになるのが、このタイプの音楽にはぴったりだ。CDプレーヤーは先ほどと同じ透明感を保ち、音楽的な重なりをセンシティブに聞かせ、ディープな音域、そして、豊かで柔らかい低音、中間域の音はクリーンに、そして、高音域はスイートなままだ。

## 簡単なデジタルファイルが、 洗練された音楽に変換される

つまりトランジスタアンプと真空管アンプのどちらでも、素晴らしい結果が待っているということだ。個人的には、Acute Classicを真空管アンプにフィードすると、全体的に最上級な改良とドリーミーな歌声が楽しめる。そして、SSPAにフィードすると選択した音楽によって、完璧なリアージュになるだろう。

## CONNECTIONS



- 1 RCAアナログ出力
- 2 Toslinkデジタル入力
- 3 USBデジタル入力
- 4 同軸デジタル入力
- 5 バランスXLRアナログ出力